第73期　年次報告書

（自　2018年4月1日　至　2019年3月31日）

証券コード5697

株式会社サンユウ

株主の皆様へ

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社グループは2019年3月31日をもって第73期の事業年度を終了いたしましたので、ここにその事業の概況及び決算の結果についてご報告申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、米中貿易摩擦激化及び中国の景気減速などの懸念要因があったものの、政府による経済政策や好調な企業業績により、雇用・所得環境の改善が継続し、景気は緩やかな回復基調が続きました。

わが国のみがき棒鋼及び冷間圧造用鋼線業界（当業界）におきましては、主要需要家である自動車業界の生産活動が引き続き堅調に推移したことから、2018年暦年における当業界の生産量は1,894千トンと前年に比し32千トン増加いたしました（前年比1.8％増）。

このような経営環境下、当社グループは全社を挙げて収益の確保に取り組みました。

また、当社は2018年11月5日に大阪ミガキ株式会社の株式を取得し、当社グループの業容拡大及び事業基盤強化に取り組みました。

販売面では、既存の顧客に対するきめ細かな営業活動に加え、新規取引先の開拓により販売数量の拡大に努めた結果、販売数量は拡大し131千トン（前期比11.0％増）となり、売上高は19,596百万円（同13.8％増）と増収となりました。

損益につきましては、材料（鋼材）価格の値上げの影響があったものの、製品価格への転嫁及び販売数量の拡大に取り組み、併せて経費の増加抑制に努めた結果、営業利益は694百万円（同40.9％増）、経常利益は699百万円（同31.8％増）と増益となりました。なお、前連結会計年度においては、完全子会社の株式会社サンユウ九州を吸収合併したことによる繰延税金資産の計上に伴い税効果適用後の税金費用が軽減しましたが、当連結会計年度は格別の特殊要因がないため、親会社株主に帰属する当期純利益は420百万円（同0.6％増）となりました。

なお、事業部門ごとの業績は次のとおりであります。

まず、みがき棒鋼部門におきましては、販売数量は74千トンとなり、売上高は12,198百万円（同13.9％増）となりました。

次に、冷間圧造用鋼線部門におきましては、販売数量は57千トンとなり、売上高は7,398百万円（同13.7％増）となりました。

当連結会計年度に実施した設備投資の総額は421百万円で、その主なものは、ショットブラストの更新（67百万円）であります。これらの資金は自己資金及び借入金にて賄いました。

わが国経済の今後の見通しにつきましては、雇用・所得環境の改善傾向が続くなかで、各種政策の効果もあって、引き続き緩やかに回復していくことが予想されますが、一方で通商問題の動向を含めた海外経済の不確実性などの懸念要因があり、楽観視できない状況にあります。

わが国の当業界につきましても、主要需要業界である自動車・建設機械分野において、今後の見通しに関する不透明感が増しつつあり、2018年度を通してタイトであった鋼材需給についても注視が必要な状況となっております。

このような経営環境下、当社グループにおきましては、保有する生産設備の効率的且つ最適な稼働を図るなどグループ間・事業所間の連携を一層強化することにより、グループ内経営資源を有効に活用し、連結収益の最大化を追求する所存であります。

株主の皆様におかれましては、なにとぞ以上の諸事情をご賢察のうえ、今後ともご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2019年6月

代表取締役社長　西野淳二

事業の内容

●生産

大阪府内の2工場及び熊本県の九州工場を軸に、品質・数量ともに安定した効率的生産体制を構築しています。

需要家の求めるあらゆる用途や仕様に適合する優れた品質の製品を安定的・効率的に生産し、迅速・確実にお届けするために、大阪府内の枚方市と八尾市及び熊本県菊池市に消費地密着型のみがき棒鋼（普通鋼・構造用鋼、合金鋼、快削鋼、ステンレス鋼）と冷間圧造用鋼線（普通鋼・構造用鋼、合金鋼）の工場を展開しています。枚方市にある本社工場では、みがき棒鋼の多品種生産を行うとともに精密加工により、高付加価値製品を産み出しています。八尾工場及び九州工場では、みがき棒鋼を生産するとともに自動酸洗設備及び熱処理炉を最大限に活用した冷間圧造用鋼線の生産により、自動車関連需要に対応しています。高炉・電炉メーカーの厳しい品質管理のもとで生産された優れた素材を使用することにより、良質のみがき棒鋼及び冷間圧造用鋼線を生産し多くの産業界に提供しています。

●品質管理

鉄鋼メーカーと共同でよりよい品質の製品を開発しており、厳しい品質管理体制は需要家にも定評があります。

技術革新の著しい進展のなかで、製品に対する品質要求はますます高まっています。当社グループでは、高品質の製品を生産するために、その生命線ともいうべき引抜ダイスの寸法精度を厳密に管理するとともに製品の寸法精度や形状精度を向上させ、表面きず等を低減させるために、徹底した工程内検査や厳格な出荷前検査を実施しています。特に表面きずについては渦流探傷機等を活用し、万全の注意を払って検査しております。

また、鉄鋼メーカーとは新製品・新技術の開発計画、品質等について定期的に検討会を開催し、共同での改善・開発や共同品質管理体制を確立しています。

㈱サンユウにおきましては、ISO9001及びISO14001の国際規格を認証取得しており、今後とも品質の充実を図ってまいります。

●物流

業界随一の自動立体倉庫を軸に多品種の標準製品を常備在庫し、多様なニーズに即応できる全国的な物流・情報ネットワークを構築しています。

「必要なとき必要な製品を必要なだけ供給する」といった販売基本方針のもと、製品を供給するために、全国をカバーする物流・情報ネットワークを構築しています。その核となるのが、大阪府内2カ所に設けた営業用立体倉庫で、常時9,000トンもの多彩な標準製品をストックしています。特に東大阪市に設置した業界初の自動立体倉庫では入出庫管理はすべてコンピューター化されているので、需要家が求める製品がどこにあるかを瞬時に検索することができるようになっています。その結果、効率的な搬出入作業が可能となり、近畿圏の即納体制を確立しています。

また、北海道から九州まで、全国各地を網羅した地域特約店との関係を強化することにより、㈱サンユウの4営業店舗並びに子会社の大阪ミガキ㈱及び大同磨鋼材工業㈱の各拠点と合わせて全国的な物流・情報ネットワークを構築しています。

●技術

優れた良質の素材と最新の技術力、設備力で、高精度・高品質のみがき棒鋼及び冷間圧造用鋼線を効率的に生産しています。

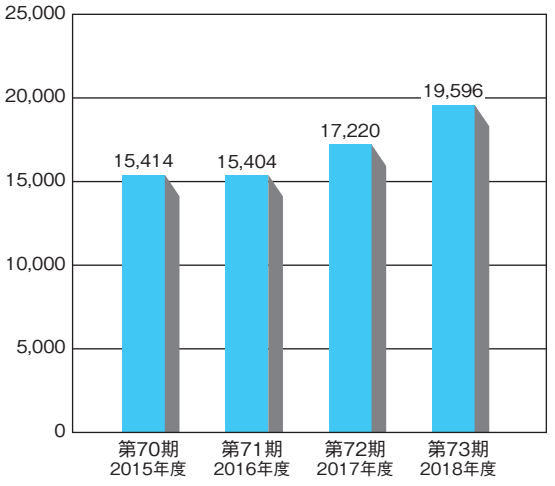
みがき棒鋼及び冷間圧造用鋼線は、鉄鋼メーカーの優れた品質の熱間圧延材を使用し、冷間引抜加工等により生産しています。冷間引抜加工とは、厳密な寸法・形状の穴型をもつ引抜ダイスと呼ばれる超硬合金製の工具で、少し大きい寸法の素材を穴型を通して引き抜くことにより、穴型の寸法・形状に成型する加工方法のことをいいます。

このうち、みがき棒鋼は（引き抜き－矯正）工程または（表面切削（ピーリング）－矯正）工程により精密な寸法・形状に仕上げられた棒状の製品をいい、引抜機は細物用に使用する連続抽伸機と太物用に1本ずつ引き抜く棒鋼引抜機（ドローベンチ）の2種類を使用しています。当社グループでは、最新の連続抽伸機、棒鋼引抜機、ピーリング及び矯正機を導入し、精密で高品質の製品を効率よく生産し、さまざまな需要家ニーズに応じています。

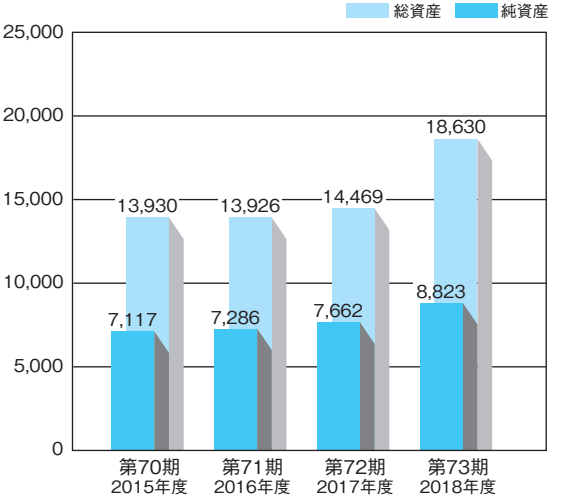
一方、冷間圧造用鋼線は、自動酸洗設備で表面の酸化皮膜を除去した後、伸線機で引き抜くことにより精密な寸法・形状に仕上げられたコイル状の製品をいい、熱処理設備で熱処理を行うことにより、高品質の製品を生産し好評を得ています。

連結業績の推移

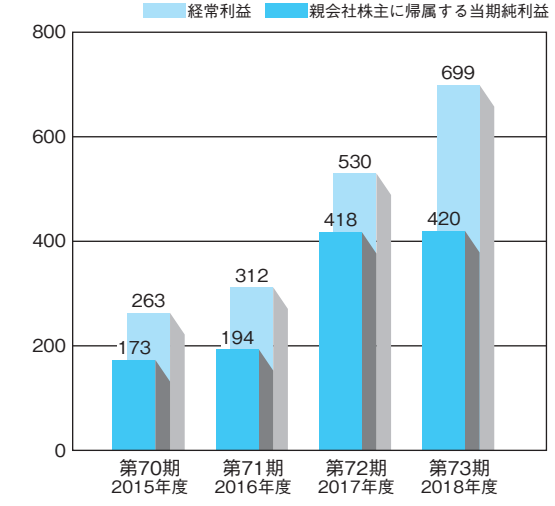
売上高（単位:百万円）



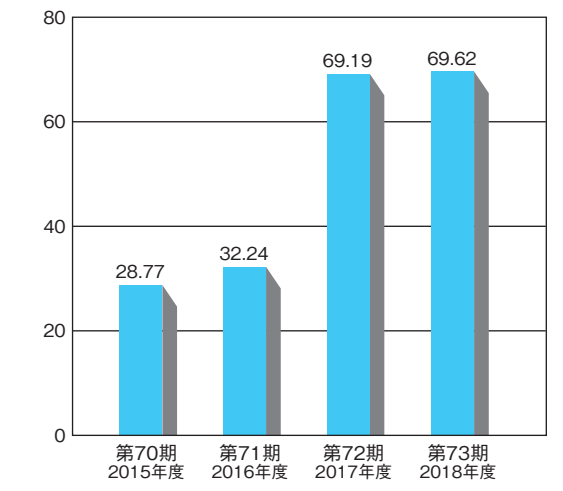
総資産・純資産（単位:百万円）



経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益（単位:百万円）



1株当たり当期純利益（単位:円）



連結財務諸表の要旨

連結貸借対照表（2019年3月31日現在）

（単位:千円）

科目	金額
［資産の部］	
流動資産	12,580,628
現金及び預金	2,184,165
受取手形及び売掛金	6,004,938
棚卸資産	4,210,163
その他	181,360
固定資産	6,049,427
有形固定資産	5,574,677
建物及び構築物	1,553,714
機械装置及び運搬具	2,082,925
土地	1,734,832
その他	203,205
無形固定資産	199,319
投資その他の資産	275,430
資産合計	18,630,055
［負債の部］	
流動負債	8,436,662
支払手形及び買掛金	5,667,627
短期借入金	1,364,000
1年内返済予定の長期借入金	517,948
その他	887,086
固定負債	1,369,413
長期借入金	1,076,908
退職給付に係る負債	78,468
その他	214,036
負債合計	9,806,075
［純資産の部］	
株主資本	8,024,820
資本金	1,513,687
資本剰余金	1,318,057
利益剰余金	5,214,468
自己株式	△ 21,392
その他の包括利益累計額	4,159
その他有価証券評価差額金	4,159
非支配株主持分	795,000
純資産合計	8,823,980
負債・純資産合計	18,630,055

（注） 1. 連結子会社は、大阪ミガキ株式会社及び大同磨鋼材工業株式会社の2社であります。
2. 有形固定資産の減価償却累計額　11,977,734千円

連結損益計算書（自　2018年4月1日　至　2019年3月31日）

（単位:千円）

科目	金額
売上高	19,596,355
売上原価	16,856,828
売上総利益	2,739,526
販売費及び一般管理費	2,044,558
営業利益	694,968
営業外収益	87,727
営業外費用	83,250
経常利益	699,445
特別利益	40,165
特別損失	32,196
税金等調整前当期純利益	707,414
法人税、住民税及び事業税	158,167
法人税等調整額	84,001
当期純利益	465,245
非支配株主に帰属する当期純利益	44,405
親会社株主に帰属する当期純利益	420,839

（注） 1株当たり当期純利益　69円62銭

連結キャッシュ・フロー計算書（自　2018年4月1日　至　2019年3月31日）

（単位:千円）

科目	金額
営業活動によるキャッシュ・フロー	809,649
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 393,604
財務活動によるキャッシュ・フロー	675,003
現金及び現金同等物の増加額	1,091,048
現金及び現金同等物の期首残高	1,093,117
現金及び現金同等物の期末残高	2,184,165

連結株主資本等変動計算書（自　2018年4月1日　至　2019年3月31日）

（単位:千円）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式
当期首残高	1,513,687	1,318,057	4,848,029	△ 21,367
当期変動額				
剰余金の配当			△ 54,400	
親会社株主に帰属する当期純利益			420,839	
自己株式の取得				△ 25
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）				
当期変動額合計	—	—	366,438	△ 25
当期末残高	1,513,687	1,318,057	5,214,468	△ 21,392

	株主資本	その他の包括利益累計額	非支配株主持分	純資産合計
	株主資本合計	その他有価証券評価差額金		
当期首残高	7,658,407	3,747	—	7,662,154
当期変動額				
剰余金の配当	△ 54,400			△ 54,400
親会社株主に帰属する当期純利益	420,839			420,839
自己株式の取得	△ 25			△ 25
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）		412	795,000	795,412
当期変動額合計	366,413	412	795,000	1,161,825
当期末残高	8,024,820	4,159	795,000	8,823,980

個別財務諸表の要旨

貸借対照表（2019年3月31日現在）　（単位:千円）

科目	金額
［資産の部］	
流動資産	9,835,202
現金及び預金	1,290,081
受取手形及び売掛金	5,011,577
棚卸資産	3,344,302
その他	189,241
固定資産	6,185,314
有形固定資産	4,354,645
建物及び構築物	1,448,254
機械装置及び運搬具	1,539,306
土地	1,239,532
その他	127,552
無形固定資産	77,722
投資その他の資産	1,752,946
資産合計	16,020,517
［負債の部］	
流動負債	7,168,513
支払手形及び買掛金	5,306,212
短期借入金	814,000
1年内返済予定の長期借入金	342,700
その他	705,600
固定負債	853,079
長期借入金	734,300
退職給付引当金	39,998
その他	78,780
負債合計	8,021,592
［純資産の部］	
株主資本	7,994,748
資本金	1,513,687
資本剰余金	1,317,207
利益剰余金	5,185,246
自己株式	△ 21,392
評価・換算差額等	4,176
その他有価証券評価差額金	4,176
純資産合計	7,998,924
負債・純資産合計	16,020,517

（注）有形固定資産の減価償却累計額　9,823,549千円

損益計算書（自　2018年4月1日　至　2019年3月31日）（単位:千円）

科目	金額
売上高	18,097,112
売上原価	15,995,639
売上総利益	2,101,472
販売費及び一般管理費	1,536,511
営業利益	564,960
営業外収益	89,842
営業外費用	21,671
経常利益	633,131
特別利益	112,369
特別損失	32,014
税引前当期純利益	713,486
法人税、住民税及び事業税	161,263
法人税等調整額	35,319
当期純利益	516,903

（注）1株当たり当期純利益　85円52銭

会社の概要

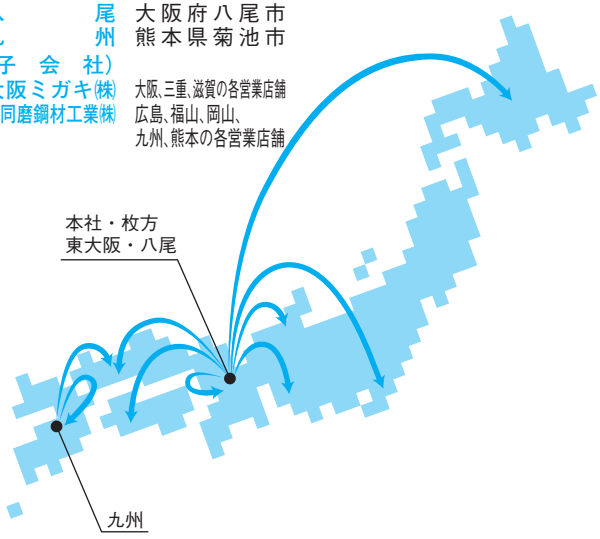
2019年3月31日現在

社名	株式会社サンユウ
所在地	本社／大阪府枚方市春日北町3丁目1番1号 電話：072-858-1251　FAX：072-858-2672
設立	1957年1月
資本金	1,513百万円
従業員数	198名（単体）、301名（連結）
事業内容	みがき棒鋼の製造、加工及び販売 冷間圧造用鋼線の製造、加工及び販売

主な事業所及びネットワーク

2019年3月31日現在

本社	大阪府枚方市
（営業店舗）	
枚方	大阪府枚方市
東大阪	大阪府東大阪市
八尾	大阪府八尾市
九州	熊本県菊池市
（工場）	
本社	大阪府枚方市
八尾	大阪府八尾市
九州	熊本県菊池市
（子会社）	
大阪ミガキ㈱	大阪、三重、滋賀の各営業店舗
大同磨鋼材工業㈱	広島、福山、岡山、 九州、熊本の各営業店舗



重要な子会社の状況

2019年3月31日現在

会社名	資本金	当社の議決権比率	主要な事業内容
大阪ミガキ株式会社	40百万円	52.0%	みがき棒鋼の製造及び販売
大同磨鋼材工業株式会社	20百万円	100.0%	鋼材の販売

（注）1. 当社は、2018年4月1日に当社100%出資の連結子会社である三和精密工業株式会社を吸収合併いたしました。
2. 当社は、2018年11月2日開催の取締役会において、大阪ミガキ株式会社の株式を取得し、子会社化することについて決議し、同日付で株式譲渡契約を締結し、2018年11月5日付で株式を取得いたしました。

役員

2019年6月27日現在

代表取締役社長	西野淳二
取締役	加藤和彦
取締役	清水良寛
常勤監査役	玉井孝一
監査役	長谷川泰一郎
監査役	藤田典明
上席執行役員	水野由実
上席執行役員	松井亮一
執行役員	大槻晃弘
執行役員	笹山英俊
執行役員	向井徹
執行役員	大木光一
執行役員	安積光治

（注）1. 取締役清水良寛氏は社外取締役であります。
2. 監査役玉井孝一、長谷川泰一郎及び藤田典明の3氏は社外監査役であります。
3. 2019年6月27日付をもって、山田邦夫氏は特別顧問に就任いたしました。

株式の状況

2019年3月31日現在

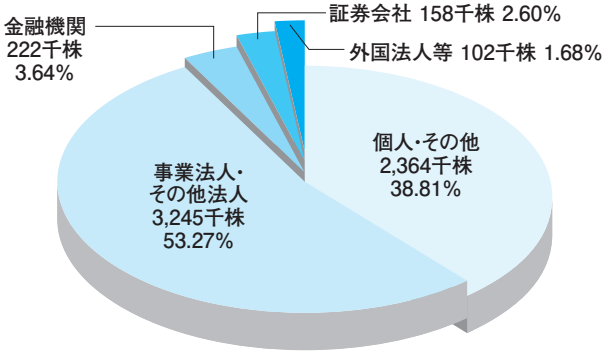
発行可能株式総数	19,344,000株
発行済株式の総数	6,091,000株
株主数	1,209名

大株主（上位10名）

株主名	持株数	持株比率
新日鐵住金株式会社	2,035 千株	33.67 %
株式会社メタルワン	315	5.21
伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社	295	4.88
村岡克彦	264	4.38
日鉄住金物産株式会社	250	4.14
永田麻里	187	3.10
佐藤商事株式会社	180	2.98
サンユウ従業員持株会	158	2.63
柏木伸夫	135	2.25
株式会社りそな銀行	110	1.82

（注） 1. 持株比率は、発行済株式の総数から自己株式（46,496株）を控除して計算しております。
2. 2019年3月31日現在、大株主として記載しております新日鐵住金株式会社及び日鉄住金物産株式会社は、2019年4月1日付をもって社名を日本製鉄株式会社及び日鉄物産株式会社にそれぞれ変更しております。

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会　毎年3月31日 期末配当金　毎年3月31日 中間配当金　毎年9月30日 その他必要がある時は、あらかじめ公告して定めます。
公告方法	電子公告により当社ホームページ（http://www.sanyu-cfs.co.jp）に掲載いたします。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
単元株式数	100株
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
各種お問合せ先 郵便物送付先	〒541-8502　大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社　大阪証券代行部 電話 0120-094-777（通話料無料）
※受付時間	9：00～17：00（土、日、祝祭日、年末年始を除く）

IRメール配信のお知らせ

当社では、株主・投資家の皆様向けにIRメールを配信しています。

配信をご希望の方は、下記アドレスから簡単にご登録（無料）いただけます。

https://rims.tr.mufg.jp/?sn=5697

IRメール配信サービスは、三菱UFJ信託銀行株式会社が運営しています。